

平成28年度 盛岡大学附属高校 学校自己評価及び学校関係者評価書

1. 今年度の重点目標・具体的な取り組み

学校経営方針	キリスト教主義に基づいて教育を行い、愛と奉仕の精神を体した人格を形成する。
本年度学校重点目標	1)生徒の豊かな成長を保証する場としての学校づくりを進める。 2)入学者の定員確保に努め、学習、生徒指導、進路指導等の充実を図る。平和の心を育む教育を推進するとともに、18歳選挙制に対応した生徒の育成に努める。
本年度の具体的な取り組み	1)定員を確保し、適切な教育環境を維持する。 2)活力あるPTA活動の実施とともに、学習活動の環境を確保する。 3)学力向上に努める。 4)規律ある学校生活を実現する。 5)安定した進路実績を実現する。 6)心身の健康に問題を持つ生徒の早期発見に努め、支援が必要な生徒への対応に努める。 7)地域に信頼される開かれた学校づくりに取り組む。

本年度の学校自己評価の結果

	重点目標	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
1.学校経営	150名の入学定員を確保し、それを維持できる礎を構築する。	専願推薦入学者100名、一般入試志願者400名を確保する。	A	昨年の反省を踏まえ、学習塾への訪問に力を注ぐことができた。超少子化時代を目前に、魅力ある学校作りに取り組みなければならない。	A	A
学校関係者評価者による意見		安定的な定員確保をしていく為には、本校の特徴や特色をいかにわかりやすく発信していくかが大切だと思います。情報を精査して、次年度の対応をしてほしいです。中学生を対象にした大学でのOCは魅力的です。				
2.総務・渉外	活力あるPTA活動の実施とともに、学習活動の環境を確保する。	PTA活動の活性化をはかる。会報、企画の充実を図る。	A	PTAの方々の積極的な参加で委員会活動等は予定通り実施することが出来た。	A	A
		生徒の学習環境の確保に努め、避難訓練・防災教育の充実を図る。	A	復興防災講話は忘れがちなことを教えて頂き、日頃からの備えを再認識した。	A	A
学校関係者評価者による意見		参加者が増加傾向にあり、PTA活動は活発に行われていると思う。保護者が、学校に興味と理解を持つ事に繋がるので、今後も活発な活動を続けて欲しい。また、防災教育についても、継続して頂きたい。				
3.学習指導	自ら学ぶ意欲を育て、学習する習慣を身につけさせる。	各教科の特性に応じて「家庭学習課題」を出し、家庭学習習慣の育成に努める。	B	各教科で家庭学習課題をだして指導にあたったことは評価できる。	B	A
		各期の定期考査前に学業不振者に補習を実施する。再考査に向けた取組を強化する。	B	欠点科目が多い生徒は減少したが、1,2科目取得の生徒が多いのが課題である。	B	A
	教員の授業力向上を図り、生徒の学力向上に努める。	授業交換や教科内授業等により可能な限り自習時間を無くし、授業時間の確保に努める。	A	計画された授業時間数に対して100%の授業実施状況である。	A	A
		校内研修会の充実と校外研修の積極的参加に努める。「観点別評価」を推進する。	A	「観点別評価」の校内研修を実施するなど取り組みを強めた。	A	A
学校関係者評価者による意見		学習態度を学校全体で向上させる取り組みは大変良いと思います。同時に、授業の質の向上も大切です。マナーの悪い生徒については、発達障がいも視野に入れ対応してください。親との密な連絡が大切です。また、授業の理解度については、コースや学年により極端な差が生じていることが気になります。				
4.生徒指導	基本的な生活習慣の確立、学習規律の徹底を図り、生徒指導上の問題行動を一層減らす努力をする。特に、いじめのない学校をめざす。	「チェックシート」を利用し、遅刻を昨年より減少させる。	B	学年集会、各クラス、ホームルームで啓蒙指導する。	A	A
		頭髪・服装についてのマナーアップ運動を通年で実施する。	A	学年集会、各クラス、ホームルームで啓蒙指導する。	A	A
		部活動参加率を男子82%、女子75%に高める。	A	学年集会、各クラス、ホームルームでの規範意識の指導をする。	A	A
学校関係者評価者による意見		近隣住民の立場で見た場合、問題ある生徒はほとんどいません。学校の指導の成果だと感じます。いじめ問題については、必ず有るものとして捉えてください。家庭環境の把握に努め、情報を細かく分析し、早めの対策が大切です。また、生徒だけの空間を出来るだけ作らない事も大事です。				

5.保健課	生涯を通じて、健康で安全な生活を送るための基礎を培い、たくましく生きていけるように実践能力を育成する。	基本的な生活習慣を確立し、自ら健康維持・増進に努めるよう指導する。特に睡眠について指導、アンケートを実施する。 平日12時まで就寝 数値目標85%以上 平日睡眠時間は6時間以上 数値目標90%以上	A	次年度以降も、部活動顧問の声掛け・協力をお願いしたい。スマートフォンやパソコンの使用時間や寝室内持込、平日と休日の起床時間の差の実態把握が出来た。来年度は、その結果も含めて指導して行きたい。	A	A
		心身の悩みや生活の乱れ等による来室者に対し、面談したり改善策を考えたりし、自分で解決していけるよう支援する。	A	出来る限り個別にゆっくり話を聞き、一緒に考える時間を確保したい。	A	A
学校関係者評価者による意見		家庭との連携が大事であるが、家庭内が問題を抱えている生徒は、より親身な対応が求められます。大変だとは思いますが、不安定な生徒の話を聞いて欲しいです。また、睡眠に関して、空き時間に睡眠を取らせるのも、一つの方法です。スマホは依存症になりやすいので、気をつけて欲しいです。				
6.相談課	サポートを必要とする生徒に対し、身近な助言者として相談活動を実施する。自立のための援助と支援を継続し、実践能力を育成する。	相談課と不適応生徒指導員は学年会と連携し、不登校生の早期発見に努め、早期改善に努める。	B	一般生徒については状況把握に努め、早期に対応する。最初の相談は、教員であることを自覚する必要がある。	B	A
		学校カウンセラーの活用により、問題を抱える生徒・保護者の安定につなげる。	A	保護者に対して、担任を通じてスクールカウンセラーによるカウンセリングが実施されていることを周知してもらう。	A	A
学校関係者評価者による意見		心身両面について、不安や悩みを抱えている生徒は年々増えてきているように感じますが、個々の状況に応じた丁寧な対応を取られていると思います。この点は本校にとって非常に重要な方向性だと思います。また、教師のストレスも大変になるので、学校として、配慮をお願いします。				
7.進路指導	自分を知り、自分を生かす進路の発見、それを可能にする基礎的な学力と実践的行動力を育成する。	盛岡大学・同短期大学部をはじめとする上級学校への進学率を8割以上を目指す。	A	教進コースにおいて、児童教育学科、幼児教育学科への進学をうながすようなカリキュラムの見直しが必要だと思う。	A	A
		進学コース・教進コースにおいても、センター試験を受験させ特進コースと合わせて、国公立大学進学希望者4割の合格を目標とする。	B	2年生の3月には具体的な進路を決定させるように、担任・学年中心の取り組みを実施する。	B	A
		基礎学力の定着を目的にした、マナトレを通年で実施する。その成果を進路マップで分析する。	B	D3教科は放課後学習と再試験を義務付けるなどの対策が必要と考える。	B	A
学校関係者評価者による意見		1月の時点で80%の生徒が進路決定していることは、高く評価できます。進路に関しては、中学生が受験校を選択する上で特に重要な要素なので、明確な方向性を学校として持って取り組んで欲しいです。特に本校は大学の附属高校であり、附属高校推薦の充実も含め、一層の取り組み強化を期待したいです。盛大・同短期大学部へ優秀な生徒を送って下さい。				
8.家庭・地域との連携	地域に信頼される開かれた学校づくりに取り組む。	地域活動やボランティア活動への生徒参加を奨励し、地域との交流を図る。また、活動内容を保護者等に知らせる。	A	1学年の被災地遠足は、今年で2年目となり、1学年に定着させたい。また、特定クラブに偏りがちなボランティア活動を全クラブに広げていきたい。	A	A
		家庭との連携を図り、面倒見の良い学校教育を実践する。	B	アンケートの意見に、文化祭や学校への提言が多く、出来るだけ取り入れていきたい。	B	A
学校関係者評価者による意見		地域ボランティアや保育ボランティアなど、校外の地域や社会と交流連携した活動に積極的に取り組まれていることは、非常に評価できると思います。文化祭は自分が楽しむ事が大事ですが、もっと、地域の方々に来てもらったほうが、地域密着性があり良いと思います。保護者を含めた外部への情報発信手段として、ホームページの活用と充実をさらに検討していただきたいです。				
9.学校独自の活動	建学の精神に基づき広くキリスト教主義の理解を広める。	全校礼拝は全職員・全生徒が聖書・讃美歌持参で出席する。	A	宗教委員による聖書賛美歌の有無を確認する。また、進級の際に、聖書・賛美歌を紛失する生徒が見られるので注意を促す。	A	A
		宗教委員による司会・会場準備と説教者の確認をする。また、クリスマス礼拝を公開とする。	A	宗教委員会の計画を立てる際には変更がありうることを伝え、委員が欠席の際も滞りなく実施する。	A	A
学校関係者評価者による意見		本校の根幹をなす部分なので、揺らぐことの無いように維持して欲しいです。建学の精神がいかにかっちり根付いているかと言う点が、最終的には学校の品位を決めると思います。				

※達成状況は教職員による学校評価アンケートや保護者・生徒のアンケート、1年間の業務遂行状況を勘案し校長がA～Dの評価をしたものである。(A 適切である B おおむね適切である C あまり適切ではない D 全く適切ではない)

※学校関係者評価は自己評価の適切さと改善策の適切さについてAからDの評価をしたものである。(A 目標を十分達成している B 目標を達成しているが改善の余地がある C 目標を達成するには幾つかの課題がある D 課題が多く改善が必要)